

め、RARA と何らかの遺伝子が転座し APL の発症に関与していることが考えられる。報告されている論文に基づき RT-PCR を行ったが、現在までのところ染色体異常の特定には至っていない。現在までのところ寛解を維持しており地固め療法を施行中である。

【結語】 FISH では RAR  $\alpha$  signal を 3 つ認めたが、PML との融合 signal は認められなかった。このため RAR  $\alpha$  と PML 以外の何らかの遺伝子の転座が発症に関与していると考えた。RAR  $\alpha$  の break point のほとんどは intron3 であるが、N  $\mu$  MA/RAR  $\alpha$  の転座では exon4 での切断点が報告されている。今回行った RT-PCR は primer を RAR  $\alpha$  の exon3 付近に設定したものであり、今後、切断点が intron3 以外に存在する可能性も考慮し、検索を行っていきたい。

## 5 皮膚浸潤を認めた小児急性骨髄性白血病 (M7) の 2 例

渡辺 輝浩・高地 貴行・小川 淳  
 浅見 恵子・竹之内辰也\*・根本 啓一\*\*  
 県立がんセンター新潟病院小児科  
 同 皮膚科\*  
 同 病理\*\*

〔症例 1〕 1 歳男児。trisomy 21 (Down 症候群) あり。左足底に径 5-10mm 大の皮下腫瘤あり、生検及び骨髄検査により AML-M7, leukemia cutis と診断された。化学療法にて完全寛解に導入されたが、治療終了後皮膚のみの髄外単独再発を繰り返している。

〔症例 2〕 1 歳男児。trisomy 21 (Down 症候群) の合併なし。頭皮をはじめ全身に皮下結節が多数あり、生検及び骨髄検査にて AML-M7, leukemia cutis と診断された。化学療法が有効で、速やかに完全寛解に導入され、現在強化療法中である。

小児の AML では、約 3-5% に皮膚病変を合併するが、その多くは FAB M4, M5 においてであり、M7 においては極めて稀である。

## II. 特別講演

### 高齢者悪性リンパ腫の特性～東京都老人医療センターでの経験

東京都老人医療センター内科部長

大田 雅嗣